

第3章 教育課程編成のための資料

第1節 教育課程を編成するに当たって考慮すべき事項

第4 「小学校以降の生活や学習の基盤の育成」の視点

【幼稚園教育要領の記述】（第1章第3の5(1)）

- 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

【要点】

幼稚園教育は、小学校以降の生活や学習の基盤となるものである。幼児は、幼稚園から小学校に移行していく中で、突然違った存在になるわけではない。幼児の発達や学びは連続しているため、幼稚園から小学校への移行を円滑にする必要がある。幼稚園において大切なことは、小学校教育の先取りをすることではなく、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行うことである。

幼稚園教育は、幼児期の発達に応じて幼児の生きる力の基礎を育成するものである。幼児なりに好奇心や探究心をもち、問題を見いだしたり、解決したりする力を育てること、豊かな感性を発揮したりする機会を提供し、それを伸ばしていくことが大切になる。

幼稚園教育において、幼児が小学校に就学するまでに、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことが重要であり、それらの基礎が育ってきているか、さらに、小学校の生活や学習の基礎へと結びつく方向に向かおうとしているかを捉える必要がある。また、小学校への入学が近づく幼稚園修了の時期には、皆と一緒に教師の話を聞いたり、行動したり、きまりを守ったりすることができるようにすることや、協同して遊ぶ経験を重ねることによって、共に協力して目標をめざそうとすることが大切であるので、このことに留意して指導方法を工夫したい。

第5 「小学校教育との接続」の視点

【幼稚園教育要領の記述】（第1章第3の5(2)）

- 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

【要点】

幼稚園と小学校における生活の変化に子供が対応できるようになっていくことも学びの一つとして捉え、教師は適切な指導を行うことが必要である。

子供の発達と学びの連続性を確保するためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼稚園と小学校の教師が幼児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。また、子供の発達を長期的な視点で捉え、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深められるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究会や研修会、保育参観や授業参観などの連携を図るようにすることが大切である。

円滑な接続のためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を生かして、幼稚園の教師から小学校の教師に幼児の成長や教師の働きかけの意図を伝えること、幼児と児童の交流の機会を設け、連携を図ることが大切である。